

成果の説明書

| | |
|--|-------------|
| (氏名) 若林 隆久 | (学部) 地域政策学部 |
| 1 重要事項 | |
| (1) 研究 | |
| ① 研究成果 | |
| 【論文など】 | |
| 1. 若林隆久 (2020)「オンラインコワーキングスペースという取り組み:OMO (Online Merges with Offline) コワーキングスペース「hiroen」」『産業研究』56 (1), 53-59. | |
| 2. 若林隆久 (2021)「群馬 SAKE TSUGU: 地域の酒蔵のプロモーションとコミュニティ」『産業研究』56 (2), 22-28. | |
| 【口頭発表・講演など】 | |
| 3. 若林隆久 (2020)「地方における新しい働き方と働く場所」2020 年度高崎経済大学連携公開講座, 群馬: 高崎経済大学 111 教室. (2020 年 11 月 10 日) | |
| 4. 若林隆久 (2021)「働く場所の機能と働き方を再考する: コロナ禍でのこの一年を振り返って」一般社団法人経営研究所「人材開発と組織」研究会 3 月例会, Zoom ミーティングルーム. (2021 年 3 月 16 日) | |
| 【その他】 | |
| 5. 若林隆久 (2020)「職場へのトランジションからみたコロナ禍の働き方と大学教育の変化」『たかけい学報』104, 12. | |
| ② 研究費 | |
| (A) 科学研究費助成事業・若手研究の課題番号 19K13804「個人間ネットワークがもたらす組織活性化の定量的・定性的研究」(2019 年度~2022 年度、研究代表者: 若林隆久) が継続された (https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19K13804/)。 | |
| (B) 令和 2 年度高崎経済大学研究奨励費「オンラインにおける対話的な学びを促す教育手法の探求」が採択された(個人)。 | |
| (C) 平成 30 年度地域科学研究所研究プロジェクト「地方都市における中小製造業の存立基盤に関する研究」が継続された(研究分担者、研究代表者: 永田瞬)。 | |
| (D) 令和 2 年度地域科学研究所研究プロジェクト「現代の地域におけるリーダーシップのあり方の研究」が採択され、立教大学経営学部准教授・館野泰一先生および関西大学社会学部准教授・松下慶太先生をお招きして 2 回の公開講演会を実施した(研究代表者: 若林隆久)。 | |
| ③ 「組織におけるキャリアとワークスタイル」研究会開催 | |
| 高崎経済大学地域政策学会「学生向け学習・研究支援プログラム助成」の助成も受け、研究教育活動の一環として「組織におけるキャリアとワークスタイル」研究会を 2 回とワークショップ 7 回をオンラインにて開催した。 | |
| (2) 教育 | |
| ① 講義 | |
| 前期には「経営学」と「キャリアデザイン論」、後期には「経営分析」の講義を担当し、遠隔授業として実施した。また、「地域政策を考える」および大学院の「地域活性化特論」の担当回で講義を行った。 | |
| ② 演習 | |
| 基礎演習および演習 I・II では、Zoom や Slack を活用して対面およびオンラインで実施したほか、課外活動として群馬の地酒 PR 動画コンテストに参加した。 | |

(3) 社会における活動

① 一般社団法人経営研究所「人材開発と組織」研究会 コーディネータ

経営研究所の「人材開発と組織」研究会において、コーディネータを務めた。

② 日本生産性本部・経営アカデミー「組織変革とリーダーシップコース」講師

日本生産性本部・経営アカデミーの「組織変革とリーダーシップコース」において、「これからのワークプレイス、ワークスタイル、マネジメント：DX を自分事で考える」「未来をソウゾウする：シナリオプランニング・アクションプラン」という講義を行った。また、グループ指導講師を務め、「内発的動機づけと評価の関係：人の話をじっくり聴こう」という論文作成の指導を行った。

2 その他の事項

- 広報室運営委員会、職域代表、カリキュラム改革ワーキンググループ、遠隔授業導入ワーキンググループなどの学内業務を行った。
- 文部科学省「留学生就職促進プログラム」グローバル・ハタラクラスぐんまのカリキュラム委員会の委員、および、群馬県創業支援連携会議の委員として、関連する会議・業務などに携わった。
- 研究・教育の一環として、教育改善スキル習得オンラインプログラム（科目デザイン編）、ID 公開講座入門編・応用編（以上、熊本大学）、ティーチング・ポートフォリオ作成・見直しワークショップ（講師：東京大学 栗田佳代子先生・吉田壘先生）、教育評価の基礎講座（京都大学）、反転授業ワークショップ、詳細シラバスワークショップ、授業デザインワークショップ（以上、芝浦工業大学）、教育／研修設計領域の基礎理論学習会（株式会社 HRD 研究所）、レゴ®シリアスプレイ®ファシリテータ養成トレーニング、リーダー育英塾特別オンラインセミナー「コロナ禍を乗り越えるスクールリーダーシップ～いかに学びを継続させるか」、シナリオプランニング入門編（桐蔭学園トランジションセンター）、はじめて学ぶ NVC の教室（グリーンズの学校）、アンガーマネジメントの各種講座を受講・修了した。

3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、来年度も継続予定である科学研究費助成事業・若手研究を中心に、これまでに実施した職場やコワーキングスペースに関する調査研究を継続しながら研究成果をまとめていく。また、今年度から開始した地域科学研究所研究プロジェクト「現代の地域におけるリーダーシップのあり方の研究」を研究代表者として遂行する。さらに、これらに関連する内容として、リーダーシップ開発やオンラインの教育・研修についての調査研究および実践に取り組む。

教育面では、新型コロナウイルスの影響を鑑みつつ、対面とオンラインを併用した講義・ゼミを実施する。本年度までの取り組みを活かしつつ、対面とオンラインの併用に適した形式・内容の講義の確立に取り組む。ゼミにおいては、内部での活動を充実させ質を高めるとともに、外部との交流や国内外のフィールドワークといった活動の新たな形を模索する。教育活動についても、研究活動と同様に積極的に教育内容や成果を発信していくことを目指す。